

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人たちが集う定時制の課程として、人に認められる喜び、勉強がわかる喜び、夢や志を抱く喜び、人と理解し合える喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 単位制のシステムを有効活用し希望に応じた自己実現を図れる学校
2. 一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し協力する学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) さまざまな人々が学ぶ定時制の課程において「学ぶこと」の必要性を理解し、「学ぶこと」に対する目的を持つ生徒を育成する。

ア 平常の授業だけでなく、HRでの取り組みや総合学習の講演等も活用し、学ぶことの意味や大切さを理解させる。

※生徒による授業アンケートで「生徒意識」についての肯定的回答（平成 25 年度 73%）を平成 28 年には 80%以上にする。（平成 26 年度 75.5%）○

イ 教職員全体で授業規律についての認識を共有し、生徒一人ひとりの学ぶ権利を保障する。

※生徒向け学校教育自己診断で「落ち着いて学習できる」（平成 25 年度は 45%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 60%にする。（平成 26 年度 50%）○

(2) 授業において基礎学力の定着を図る指導法を工夫し、学習意欲の高い生徒を育成する。

ア 各教科で生徒の学力実態に対応した学習内容や教材を研究し、シラバスの改善に生かす。

イ ICTや視聴覚教材を用いた授業および体験的学習を取り入れた授業を増やし、生徒の学習意欲を高める。

ウ 授業アンケートの分析・授業見学での提言を活用し、各教員の授業改善を進める。

エ 必要に応じて、少人数展開授業や TT など授業形態を工夫し、学習効果を高める。

※生徒向け学校教育自己診断で「学校の授業はわかりやすい」（平成 25 年度は 56%）を平成 28 年度には 65%にする。（平成 26 年度 56%）△

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 生命の尊重や善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 各教科・科目の学習活動を中心に、HR・総合学習・特別活動等も含めた教育活動全体を通じて指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定的回答（平成 25 年度 56%）を平成 28 年度には 70%以上にする。（平成 26 年度 66%）◎

(2) 様々な活動を通して、人と関わることを体験し、有意義な学校生活を送れるように努める。

ア 各種行事で、生徒の自主性を尊重し、リーダー生徒の育成を図る。

イ 各種行事において、保護者・地域住民や中学校との連携・交流を工夫する。

ウ ボランティア活動や部活動を通して、学校に対する誇りと自尊感情を育てる。

※学校行事等で、毎年 10%を目標に P T A の参加人数を増やしていく。（平成 26 年度は前年度比+78%）◎

(3) 生徒指導に際しては、生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学・地域との連携を密にして進める。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」（平成 25 年度 62%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 70%以上にする。（平成 26 年度 64%）△

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来の生き方を考え、進路を選択することができるように進路指導の充実を図る。

※4(3)年間の具体的な進路指導計画の電子データ化（平成 26 年度）と改良（平成 27・28 年度）。（平成 26 年度原案作成）

※卒業生徒の進路決定率（平成 25 年度 47%）を平成 28 年度には 60%以上にする。（平成 26 年度 53%）◎

(2) 生徒の進路に関する悩みを受け止め、進路相談やガイダンス機能の充実を図る。

ア 外部講師等を活用し、生徒が色々な人の生き方触れる機会を与える。また、分掌・学年間が連携したガイダンスの体制を築く。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」（平成 25 年度 56%）を平成 28 年度には 65%以上にする。（平成 26 年度 56%）△

4 安全で安心な学校環境づくりを推進する

(1) 学校生活や校外の行事など、生徒の教育活動全般がより安全で安心に実施できるよう、施設設備・人員配置の充実に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における「設備は整備されている」（平成 25 年度 51%）を平成 28 年度には 60%にする。（平成 26 年度 59%）◎

5 校内組織の活性化と機動力を強化する

(1) 将来構想に校務検討委員会を活用し、学校改革の推進を図る。

※月 1 回程度開催し、年間で 3 つ以上の課題解決をめざす。（平成 26 年度 10 回開催 4 つの課題解決）○

(2) 首席を活用し、広報活動の充実と若手教員の育成に取り組む。

※首席による、年間 5 回以上の職員研修の開催をめざす。（平成 26 年度 8 回）◎

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒による自己診断 回答数 1 4 4</p> <p><前年と比較して肯定的回答に 5%を超える変化があった項目と分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業は補助教材も使うなど工夫している。」+13% ICT 機器等を使用し、視覚に訴える教材を導入する授業が増えた。 ・「命の大切さ、人権について考える機会がある。」+10% 震災で被災した中学生の講演が生徒にとって印象強かった。また、国語や家庭などの授業でも関連した教材に取り組んでいる。 ・「設備は学校生活を送りやすいよう整備されている。」+8% 今年度から、定時制専用の保健室が設置された。 ・「学校の授業中は落ち着いて学習できる。」+5% 	<p>第 1 回 平成 26 年 6 月 16 日 (月)</p> <p>○平成 26 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業妨害に対しては、粘り強い毅然とした指導が重要。 ・「学校教育自己診断」には「学校の授業は教科書以外の教材を使うなどの工夫をしている。」との質問があるが、授業の工夫は教材だけではない。授業そのものの工夫や教科書をていねいに使っていることも該当するので、表現を変えた方がよいのではないか。 ・前回の学校協議会でも出たが、「学校教育自己診断」の設問「学校の授業中は、落ち着いて学習できる環境である」の「環境」のところはハード面よりは、生徒に伝わるように雰囲気などのソフト面の表現に変えた方がよい。

府立寝屋川高等学校

授業規律に関する指導が定着し、授業中の教室が落ち着いてきている。
 ・「学校に行くのは楽しい。」－7%
 ただし、この設問については否定的回答も－24%で、「わからない」という回答が+32%。
 「学校が楽しくない。」と答えている生徒が大幅に減少したのは、一定評価できる。

○保護者による自己診断 回答数70

<前年と比較して肯定的回答に15%を超える変化があった項目と分析>

- ・「授業内容は分かりやすいようだ」+22%
- ・「授業中は落ち着いて学習しているようだ」+25%
- ・「進路希望に応じて選べる選択科目がある。」+15%
- ・「学校の様子を懇談やプリントで知ることができる。」+21%
- ・「授業参観や行事に参加してみたい。」+20%
- ・「生徒指導の方針は理解できる。」+21%

一方、15%を超えてマイナスに変化した項目はない。

学校行事に参加する保護者の大幅な増加からも、以前より保護者の目が子供たちに向いてきている。また、学校と家庭との連携は強まっていると考えられる。

以下は、比較的肯定的回答率が高かった設問（70%以上）

- ・「学校は単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。」77%
- ・「学校はコース選択や科目選択などをわかりやすく伝えている。」73%
- ・「学校の授業の内容はわかりやすいようだ。」74%
- ・「学校の生徒指導の方針は理解できる。」82%
- ・「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている。」71%

- ・体育祭等の学校行事において、積極的な教員とそれに導かれる生徒たちの関係がとてよく、学校行事を楽しんでいると感じている。
- ・進路指導に関して、今年度は企業の訪問や新規開拓に学校全体で取り組むことをはじめとして、校内の進路指導体制作りにも力を入れてもらいたい。また、大学等進学を志す生徒の受験指導(放課後の個別指導など)にも配慮いただきたい。
- ・学校全体としての生徒相談機能をさらに充実させ、就職、進学ともに夢を持つ生徒への丁寧なサポートをお願いしたい。
- ・「貧困問題」、「格差問題」、「保護者の生活力」、「経済的な背景」、「学力」等で様々な課題がある生徒たちの進路先として、定時制高校がその役割を担ってほしい。生徒たちに「学ぶこと」「生きること」「社会の中でどうかかわっていくかということ」を今後もしっかり教えていただきたい。

第2回 平成26年11月19日(水)

○平成26年度学校経営計画の進捗状況について

- ・生徒に寄り添う先生は評価が高い。また、生徒に寄り添うことで着実にいくつか成果を上げているので今後も継続してもらいたい。
- ・生徒が注目されるということは、自尊感情を高めるうえで重要なこと。生徒が活躍する場を提供し、生徒が参加したいという行動変容に繋がられるよう、さまざまな「仕掛け」を準備してほしい。

○生徒の健康管理について

- ・健康診断身受験者について、自分自身のために受診するよう指導願いたい。心臓については、以前既往歴のある生徒は、必要があれば医療機関に繋ぐなど管理をお願いしたい。

第3回 平成27年2月16日(月)

○平成26年度学校教育自己診断について

- ・寝屋川定時制で何を不得、次のステップにつなげるのが明確になれば、生徒があえて定時制を選択するようになる。中学校と連携を取ってやってほしい。

○平成26年度学校経営計画について

- ・進路の実績が伸びている背景に基礎学力講座や教員の研修、外部講師のセミナーなどの効果がある。進路実現に向けさらに力を入れていただきたい。
- ・支援を要する生徒への専門的な知識に基づいた対応力は今後も重要になる。生徒が学ぶことに前向きになれるかどうかは、指導の工夫ができていくかどうかの指標になるのでさらに頑張ってもらいたい。
- ・保護者と学校の望ましい連携を今後とも継続してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1) わかる喜びを伝える授業づくり</p> <p>ア 授業規律を推進</p> <p>イ 授業アンケートと授業見学を活用した授業力アップ</p> <p>ウ 外部人材の活用と体験的学習の充実</p>	<p>ア・「授業規律」についての指導を進める。具体的には自習も含めた授業がより落ち着いた状況の中で実施できるよう人的配置を工夫する。</p> <p>イ・各教科でICT機器を用いた授業を積極的に取り入れ、生徒の授業満足度を上げる。</p> <p>・授業アンケートの結果及び授業見学後の提言を活用し、全教員の授業力アップを図る</p> <p>ウ・英語は昨年に続きネイティブの招聘を図り、実践的英語教育を継続する。</p> <p>・地域との連携により体験的学習を充実させて、生徒の学習意欲の向上に努める。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「落ち着いて学習できる」の肯定的意見（平成25年度45%）を5%以上向上</p> <p>イ・学校教育自己診断の「授業での工夫」の肯定的意見（平成25年度38%）を5%以上向上</p> <p>・学校教育自己診断で「学校の授業はわかりやすい」の肯定率（平成25年度56%）を3%以上向上</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「外部の講師による講演」の肯定率（H25年度46%）を5%以上向上</p>	<p>ア・今年度より、授業担当者表中に自習担当者（各時間2～3名）を明記し、突然に自習が生じても対応できるような体制を整えた。学校教育自己診断の「落ち着いて学習できる」の肯定的意見は平成26年度50%で+5%（○） 「落ち着いて学習できるようだ（保護者）」は60%になり+25%。（◎）</p> <p>イ・8月末に第1回授業アンケートの結果を返却し、次の①②について検討した。 ①各教員が自分の結果を分析し授業改善する ②各教科で教科結果を分析し、ICTを活用した授業や授業形態の工夫について検討する 学校教育自己診断の「授業での工夫」の肯定的意見は平成26年度51%で+13%（◎） ・学校教育自己診断の「授業は分かりやすい」の肯定的意見は平成26年度は56%で±0（△） 一方「授業は分かりやすいようだ（保護者）」は前年度52%から74%になり+22%（◎）</p> <p>ウ・昨年度に続いてネイティブ（T-NET）を週一回木曜日に招聘し、1年生を中心に授業で活用した。</p> <p>・外部講師の講演 講演者とテーマ 7/11 ハローワーク職員「働くこと」 7/15 寝屋川警察「交通安全」 7/17 ファイナンシャルプランナー「お金の話」 10/16 大学・専門学校等職員「進路」 11/7 東日本大震災被災者「星に願いを」 12/15 大学准教授「ケータイ・スマホ」 12/16, 17, 19, 22 の4回 NPO 法人D&P「進路と生活を考えよう」 12/17 寝屋川警察「薬物乱用防止」 臨床心理士「ストレスマネジメント」 12/19 山本プロジェクト社長「働くとは？」 学校教育自己診断の「外部の講師による講演」の肯定率は平成26年度46%で±0%（△） ・一回だけの外部講師による講演では、受講する生徒の気持ちづくりも難しい。来年度に向けては、継続的に外部人材を導入できる教育活動にも取り組みたい。</p>

府立寝屋川高等学校

<p>2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 人権感覚と自尊感情を育てる取組み</p> <p>ア 外部人材の活用</p> <p>イ SCやSSWとの連携によるケース会議の有効活用</p> <p>ウ 中学校との連携及び保護者のPTA活動の推進</p> <p>エ 外部機関と連携し、生徒発表の場を設ける</p>	<p>ア・卒業生や地域人材等を活用し、人権HR及び総合学習の時間等を実施することで、生徒の自尊感情の育成を図る。</p> <p>イ・高校生活支援カード、中学校訪問、保護者等からの情報収集によって、課題を抱えた生徒を早期に発見し、ケース会議を通じて個に応じた支援体制をすみやかに整備する。</p> <p>ウ・中学校および保護者との連携・交流を強化するため、中学校訪問、家庭訪問、学校行事等への保護者招待に積極的に取り組む。</p> <p>エ・行事やボランティア活動での地域交流を拡大し、生徒の頑張る姿を見てもらうことにより、自尊感情を養う。</p> <p>・NPOと連携し、生徒の居場所づくりに取り組む。</p>	<p>ア・学校教育自己診断における「外部の講師による講演」の肯定率(H25年度46%)を5%以上向上</p> <p>イ・学校教育自己診断における「教員に相談しやすい」の肯定率(H25年度70%)を3%以上向上</p> <p>ウ・中学校訪問100件/年以上を維持</p> <p>・PTA定時制委員会の継続</p> <p>・行事に来校する保護者数を10%以上増加</p> <p>エ・生徒の活動や作品等を外部に紹介する企画年間5回以上実施</p> <p>・生徒が15名以上参加</p>	<p>ア・外部講師の講演…1の(ウ)と同じ(△)</p> <p>イ・スクールカウンセラー招聘26回/年 スクールソーシャルワーカー招聘10回/年 共にケース会議で活用し、生徒対応を検討。 学校教育自己診断における「教員に相談しやすい(保護者)」の肯定率67%前年比-3%(△)</p> <p>ウ・夏季休業中に学校紹介と出身生徒の現状報告を兼ね中学校訪問50校。年度末には入学者の生徒指導に関する情報交換で再度訪問予定。 12/9 守口三中の夜間中学で数・国・英の出前授業と本校の説明会を実施(○)</p> <p>・新たに4名のPTA定時制委員を委嘱。(◎)</p> <p>・学校行事への保護者参加…体育祭64名、文化祭96名合計160名(昨年比+88%)(◎)</p> <p>エ・生徒の活動や作品の外部への情報発信</p> <p>①10/26(日)寝屋川大利公園で作品展示 ②11/1(土)香里園ふれあいプラザで作品展示 ③11/16(日)寝屋川市立総合センターで作品展示 ④11/21(金)～24(月)心斎橋SNCで作品展示 ⑤11/23(日)心斎橋⑥12/6(土)京阪寝屋川市駅前で、生徒が東日本大震災への募金活動 ⑦5/30、⑧7/11、⑨10/3、⑩2/26(予定)の4回、地域清掃ボランティア活動(◎)</p> <p>・フリースクール「志塾」と連携し基礎学力講座「ねやていのエンガワ」を毎週火・木曜日の放課後に開催(内容)のべ参加者数321名(1月末)(△)</p>
<p>3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路保障に向けた進路指導の強化と進路指導計画の確立</p> <p>ア HR・総合的な学習の時間等を用いて生徒の進路意識を育てる</p> <p>イ 外部人材を有効活用する</p> <p>ウ 資格取得を通して生徒の進路実現をサポートする</p>	<p>ア・進路保健部が中心となり、HR担任と連携しながら、求人の新規開拓・卒業学年生徒の就職面談・面接練習に取り組む</p> <p>・各学年に応じた組織的・系統的な進路学習を計画的に行う。</p> <p>イ・HRや総合的な学習の時間に積極的に外部人材(ハローワーク、サポートステーション、NPO)を活用し、生徒の進路に対する意欲を育てる。</p> <p>ウ・校内で実施できるワープロ検定などの資格取得にチャレンジする生徒の数を増やす。</p>	<p>ア・学校紹介による正規就職内定者数の10%増加(H25年度16名)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度(平成25年度56%)を3%引き上げ</p> <p>イ・学校教育自己診断における「外部の講師による講演」肯定率(H25年度46%)を5%向上</p> <p>ウ・ワープロ検定受検者の10%増加(H25年度14名)</p>	<p>ア・全教職員で分担し企業訪問、報告書38社、指定校求人11件取得(昨年1件) 学校紹介による就職内定…13人(昨年度の同時期より1人増) 自己開拓による就職6人 進学…11人(昨年7人) <内訳:大学短大…4 専門学校…7>(○) 卒業生に対する進路決定率は30/57で53%</p> <p>・学校教育自己診断の進路指導満足度 平成26年度56%±0(△)</p> <p>イ・1の(ウ)と同じ(△)</p> <p>ウ・学校外の単位認定…高卒認定試験に25名がチャレンジし、内19名が合格<今年初>(◎)</p> <p>・ワープロ検定受験者22名 +57%(◎)</p>
<p>4 安全で安心な学校環境づくり</p>	<p>(1) 学校生活や行事を安全に実施する体制づくり</p> <p>ア 定時制保健室の機能充実</p> <p>イ 修学旅行の安全実施</p>	<p>ア・保健室の設備、機材の整備および機能向上</p> <p>イ・修学旅行の付添教員体制の充実</p>	<p>ア・学校教育自己診断における「学校設備の整備」の肯定的意見(H25年度51%)を3%以上向上</p> <p>イ・平成26年度修学旅行が無事終了できたか</p>	<p>ア・10月より定時制専用の保健室を設置し、従来の第二保健室をミーティングルームとして整備。会議や生徒、保護者との懇談等で有効活用できている。学校教育自己診断における「学校設備の整備」の肯定的意見は平成26年度59%で前年度より8%上昇(◎)</p> <p>イ・障がいがある生徒の引率をふまえ、例年より付添教員を2名増員し、看護師も同行した。加えて、当該生徒の保護者と付添者間で十分な事前協議を実施できたことで、概ね順調に旅程を終えることができた。(○)</p>

府立寝屋川高等学校

5 校内組織の 機動力の 強化を図る	<p>(1) 校内組織の機動力強化の取組み</p> <p>ア 校務検討委員会の活用</p>	<p>ア・校務検討委員会を適宜開催し、本校の将来めざす方向性や諸課題の解決に向けて検討する</p>	<p>ア・月に一回程度開催されているか。年間で3件以上の校内課題の解決にあたったか</p>	<p>ア・年間で10回開催。以下は検討した課題</p> <p>①広報活動（中学訪問・学校説明会の在り方）</p> <p>②ミーティングルームの整備と活用法</p> <p>③職員研修、生徒講演の時期と内容の検討</p> <p>④地域連携（教育活動の情報発信）（○）</p> <p>・来年度は、構成メンバーを変え、本校の将来像づくりとその実現に向けた計画づくりを中心に組みたい。</p>
	<p>イ 広報活動の充実</p> <p>ウ 教員研修の充実</p>	<p>イ・学校HPの更新を促進し、本校教育活動に関する情報発信を充実させる</p> <p>ウ・首席が中心として企画した教員研修の開催</p>	<p>イ・年間のHP更新回数 25回以上（H25年度20回）</p> <p>ウ・年間5回以上の研修実施</p>	<p>イ・HPの更新回数（1月時点）…34回（◎）</p> <p>ウ・教職員研修8回（◎）</p> <p>①6/19 支援教育…支援学校首席</p> <p>②9/11 スクールソーシャルワーカーとは…SSW</p> <p>③9/22 障がい者理解…本校首席</p> <p>④10/27 カウンセリング…SC</p> <p>⑤11/26 応急処置（AED）…本校首席</p> <p>⑥12/1 いじめ防止…本校教職員</p> <p>⑦12/15 体罰防止…本校教職員</p> <p>⑧1/19 中退防止…本校教職員</p>